

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1163426
園名	学校法人冲永学園 帝京にしき幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

食育

<テーマの設定理由>

### 2. 活動スケジュール

- 1、木になる果実を知る（10月）
- 2、収穫体験をし、味わう（11月）
- 3、果実の観察をする（11月）
- 4、写真で振り返る（12月）
- 5、実のなる果実を知る（1月・2月）
- 6、HPに活動報告を掲載（3月）

### 3. 探究活動の実践

園庭の梅の木に実がなり、落ちた実を拾い集め、子ども達は「いい匂いがするよ」「これは食べられないんだよね?」と興味を持った。そのようなことから「食育」をテーマに設定する。本園は都内の住宅街の中にあり、樹木になっている果実を触れたり収穫する体験ができないため、果実の収穫体験を行い、感触や匂い・味を感じ、食材への興味を探るため。

## <活動の内容>

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども達にとって身近な果実を調査し、住宅街でも豊かな収穫体験ができるよう、みかん果樹園に来ていただくよう計画した。事前に「みかんの木」や「山の風景」の写真を保育室に掲示した。その他にも果物やみかんの絵本を準備した。

### 活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

事前に準備しておいた絵本に特に興味を持ち、みかんの粒の数や花の色等の情報を保育者に伝えている様子が見られた。子ども達の声拾い、「みんなでみかんの粒を数えてみよう」「数えきれないね。小さい房にこんなに入っているね」等子ども達の興味が広がるよう、声掛けをした。

果樹園の方が収穫前に取り方やおいしいみかんの見分け方を教えてくださると、じっくり吟味して収穫する姿が見られた。収穫したみかんを自分で剥いて食べる際は「皮が固くてむけない」「白いの（筋）がとれない」等と苦戦する姿が見られたが、保育者が手を添えて一緒に剥き、「みかんのにおいがしてきたね」と香りを共有し、共感することで収穫の喜びを一緒に味わった。実際に味わってみて「すごくすっぱかった！」「私のは甘かった」等様々な感想が得られた。また、園庭になっている梅の木とみかんの木を見比べ、「木の太さが違うね」と注目したり、葉っぱの形を見たりと保育者と一緒に観察を深めていった。

その後、実際に収穫したみかんを見ながら絵を描いた際は、表面がぶつぶつしているのに気付き、どのように表現しよう？オレンジの色の濃さはどうしよう？どのようなみかんが美味しいのか等話しながら取り組む姿が見られた。その後も果物の絵本を置いておくと興味を持つ様子が見られた。





#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

実体験（収穫）と探求（絵本）をセットにすることで、子どもの興味が単なる「イベント」で終わらず、「知識」へと深化していくプロセスを実感した。都心の園だからこそ、本物の樹木に触れる経験が子どもたちの観察力を鋭くさせ、「なぜ?」「どうして?」という科学的な芽生えを引き出す重要な鍵になると再確認できた。毎年お芋ほり遠足へ行っていたが、食べるまでに時間がかかったり、調理が必要なこともあり、収穫したものを食べるまで保育の中で行うことができなかった。今回この収穫体験を行い、自分の食べるものを収穫して食べることがセットになると子ども達の食への興味がより高まることが分かった。後日保育者が雑談の中で「おいしいみかんはどんなのを選んだらいいかな?」と聞くと子ども達が前のめりになり教えてくる姿が見られた。また、給食で出されるみかんが食べられなかった園児も自分で収穫したものは進んで食べる姿が見られた。「食べる」ことへの興味が、単なる好き嫌いの克服だけでなく、自然への関心や科学的な探求心に繋がっていく様子を今後も見守っていきたい。